

学力向上の取組が進んでいます！



西部教育事務所 (H26.10)

各学校では子どもの学力向上に向けた取組が進められ、平成26年度全国学力・学習状況調査の平均正答率が高まるなど、その成果が表れ始めました。

昨年度、西部教育事務所が作成したリーフレット「学力向上のための3つの視点・5つの取組」*1を基に、学校訪問の様子や全国学力・学習状況調査の結果分析等を踏まえて、各学校の取組のよさや課題及びさらに指導の充実を図るためのポイント<プラス1>、課題解決に向けた指導のポイント<改善のためのプラス1>を示しました。

このリーフレットを参考にして自校の学力向上対策を見直し、確かな学力の向上に一層努めましょう。

視点1 授業改善の充実

取組① 子どもが考える場면을意図的につくりましょう

- 子どもが発表する時間や話し合う時間が増えています。
- 子どもの考えを引き出したたり思考を深めたりするよう発問を工夫しています。
- 子どもが解き方や考え方が分かるようにノートを書くよう指導しています。

<プラス1>

子どもが思考する時間や場面を確保し、子どもの意見をつないで思考を深めさせる授業づくりに取り組みましょう。

参考:「考える力を育てる子ども主体の授業づくり」H26.3 西部教育事務所*2

取組② 指導と評価の一体化を図りましょう

- 授業の最初に本時のめあてを示し、授業の最後に学習の振り返りを行う授業が増えています。
- 単元等のねらいを踏まえた言語活動が行われています。
- 子どもが国語の学習で目的をもって資料を読み自分の考えを話したり、書いたりするよう指導しています。

<プラス1>

課題解決に取り組む一人一人の子どもの学びを確実に見取り、個に応じた手立てを講じて本時の目標を達成させましょう。

取組③ 子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう

- 国語や算数・数学の指導で、補充的な学習を取り入れている学校が増えています。
- 基礎的・基本的な内容が身に付いている児童が増えています。
- 一人一人の資質・能力を高めるために発展的な学習を取り入れることが課題となっています。

<改善のためのプラス1>

思考力を高める発展的な課題に取り組む場や時間、教材を工夫して、子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう。

*1、2は西部教育事務所webページに掲載してありますので活用してください。

視点2 指導体制の充実

取組④ 少人数指導の充実や教科担当制に取り組みましょう

- 教科担当制を行う小学校が増えています。
- 少人数指導やティームティーチングなど子どもの実態に応じた指導形態を工夫する学校が増えています。
- 習熟の程度に応じてコースを分けていても子どもの実態に応じた指導ができていないなどきめ細かな指導に課題が見られます。

<改善のためのプラス1>

学力向上コーディネーター等を中心に、担当教師が本時のねらいや支援の手立て、教師の役割などの打合せを確実にを行い、きめ細かな指導の質的充実を図りましょう。

視点3 家庭学習の充実

取組⑤ 自ら学ぶ家庭学習の習慣を身に付けさせましょう

- 調べたり、文章を書いたりする課題を与えている学校が増えています。
- 家庭学習の課題について評価し指導する教師が増えています。
- 自分で計画を立てて家庭学習を行う子どもが増えています。



<プラス1>

家庭学習の進め方を指導したり家庭学習と授業を関連付けたりすることを学校全体で共通理解して進めることにより、子どもの家庭学習への意欲を高めていきましょう。

人間関係づくりと望ましい生活習慣の定着

- 学校生活で、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると感じている子どもが増えています。
- 学校生活で、先生は自分のよいところを認めてくれると思うと感じている子どもが増えています。
- 家庭で、家の人と学校での出来事について話をする子どもが増えています。

<プラス1>

学級活動を子ども主体で進めるなど、子どもたちが互いに認め合い、自己有用感を味わえるような活動に学校全体で取り組むことにより、子どもたちの望ましい人間関係づくりに努めましょう。

- 携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間は、全国と比べて短くなっています。
- テレビゲームをする時間は、昨年度より増加しています。

<プラス1>

携帯電話等の使い方やテレビゲームの時間について子ども自身にルールを決めさせるなど、家庭と連携して望ましい生活習慣の定着を図りましょう。